

# 左ぎっちよの正ちゃん

小川未明

青空文庫



正ちゃんまぎは、左ひだりぎつちよで、はしもを持つもにも左ひだり手てです。まりを投なげるのにも、右みぎ手でなくて左ひだり手てです。

「正まぎちゃんは、左ひだりピツチャーだね。」と、みんなにいわれました。けれど、学がっこう校のお習しゅうじ字は、どうもしても右みぎ手でなくてはいけませんので、お習しゅうじ字のときは妙みょうな手てつきをして、筆ふでを持もちました。最さい初しよ、鉛えん筆びつも左ひだり手でしたが、字じの形かたちが変へんになつてしまうので、これも右みぎ手に持もつ癖くせをつけたのです。

お母かあさんは、困こまつてしまいました。

「はやく、右みぎ手で持もつ癖くせをつけなければ。」と、ご飯はんのときに、とりわけやかましくいわれました。すると、お父とうさんが、

「<sup>ひだり</sup>左ききを無理に<sup>むり</sup>右ききに<sup>みぎ</sup>直すと、<sup>なお</sup>盲になるとか、<sup>めくら</sup>頭が悪くなる  
とか、<sup>しんぶん</sup>新聞に<sup>か</sup>書いてあつたよ。だから、しぜんのままにしてお  
いたほうがいいのじゃないか。」と、おつしやいました。

こう、<sup>はなし</sup>話が二つにわかれると、<sup>まさ</sup>正ちゃんは、いったいどうした  
らしいのでしようか。それで、つまり、<sup>がっこう</sup>学校で字を書くとときに  
は、<sup>えんぴつ</sup>鉛筆や、<sup>ふで</sup>筆を<sup>みぎて</sup>右手に持ち、またお<sup>べんとう</sup>弁当をたべたり、お<sup>うち</sup>家  
でみんなどいっしよに、お<sup>ぜん</sup>膳に向か<sup>む</sup>つてご<sup>はん</sup>飯をたべるときは、は  
しを<sup>ひだりて</sup>左手で持<sup>も</sup>つてもやかましくいわぬということになつたので  
す。そして、もとより、<sup>はら</sup>原っぱで、<sup>な</sup>まりを<sup>な</sup>投げるときは、<sup>ひだり</sup>左ピツ  
チャーで、<sup>いば</sup>威張<sup>ば</sup>つてよかつたのでした。

なんにしても、<sup>まさ</sup>正ちゃんは、<sup>ゆび</sup>指さきですることは、<sup>ぶきよう</sup>不器用であ

りました。鉛筆もひとりでうまく削れません。女中のきよに削ってもらいます。きよは、お勝手のほうちようで削ってください。ます。

「じょうずに、けずっておくれよ。」と、正ちゃんは、自分げずれないくせに、こういいいます。

「はい。」と、きよは、やりかけている仕事をやめて、ぬれた手で、丁寧ていねいに、けずってくれました。しかし、そんなときには「ありがとう。」というのを、正ちゃんまさちゃんはけっして忘れませんでした。

もう一つ、手の不器用なことの、例れいをあげてみましようか。それは、鼻はなをかむときでした。

「正ちゃん、ひとりで、鼻をかんでごらんなさい。」と、お母さんが、おつしやいますと、正ちゃんは、紙を持ってきてかみますが、かえつて鼻水をほおになすりつけるのでした。こんなとき、もしお姉さんが見ていらつしやると、すぐに立つてきて、きれいにかみ直してくださいました。

ある日のこと、正ちゃんは、大将となつて、近所の小さなヨシ子さんや、三郎さんたちといつしよに原っぱへじゆず玉を取りにゆきました。そして、たくさんとつてきて、材木の積み重ねてある、日のよく当たるところで遊んだのです。

「白いのもあるし、紫色のもあるね。」

「これは、緑色だろう。」

「そう、こんな黒いのもあつたよ。」

洋服のポケットや、前垂れのポケットの中にいれて、チャラと鳴らしていましたが、いつのまにか、ヨシ子さんの姿が見えなくなりました。

「ヨシ子さん、帰つたの。」と、正ちゃんが、ききました。

「お家へ糸を取りにいったんだろう。」と、三郎さんが答えました。

あちらから、ヨシ子さんが、かけてきました。見ると、糸と針を持つてきたのです。

「わたし、頸にかけるのだから、正ちゃん、これを糸にとおしてね。」と、いって、小さなヨシ子さんが頼みました。

ここになかいる中で、正ちゃんまさがいちばんおお大きかったです。そして、あとのものは、みんなまだがっこう学校へいっていません。だから、正ちゃんまさは、大將たいしょうでした。大將たいしょうが、下したのものに頼たのまれて、できないということは、いえませんでした。

「ああ、とおしてあげる。」と、いって、正ちゃんまさは、材木ざいもくの上に腰こしをかけながらヨシ子こさんの持もつてきた、糸いとと針はりを、自分じぶんの太ふとくて、短みじい指ゆびに受うけ取りとりました。

「なんだ、まだ針はりに糸いとがとおしてないのか、はやく、これをおしておくれよ。」と、いって正ちゃんまさは、糸いとと針はりを、ヨシ子こさんかえに返かえしたのです。

いちばんちい小さなヨシ子こさんは、もとより針はりのみぞに糸いとをとおす



ことができませんでした。

「じゃ、わたし家へいつて、とおしてもらつてくるわ。」と、ヨシ子さんは、またかけ出してゆきました。

「三ちゃん、針に糸をとおすことができる。」と、正ちゃんが、ききました。

「できない、正ちゃんは、じゆず玉をとおすことができるの。」と、三郎さんが、ききました。

「ああ、できるよ、ここんところを通せばいいんだらう。」と、正ちゃんは、じゆず玉の頭をいじっていました。

そこへ、ヨシ子さんが、針に糸をとおしてもらつて、もどつてきました。

不器用な正ちゃんが、これから、いくつも、いくつも、針でじゆず玉をとおさなければならぬのです。鼻をぐすぐす鳴らしながら、下を向いて、短い、太い指で、やつと三つ、四つとおしました。

「あ、いたい。」と、正ちゃんは、叫びました。  
「指をさしたの。」と、ヨシ子さんがのぞきました。

「もう、あぶないから、およしよ。」と、三郎さんが、いいました。

けれど、正ちゃんは、だまって下を向いて、じゆず玉を通していました。

「正ちゃん、横ちよを通してはいや、まんなかをとおしてね。」

と、ヨシ子こさんが、じゆず玉たまのまんなかを通とおすように、注意ちゆういしましたけれど正まさちゃんまは、きわめて不器用ぶきようでした。

この間あいだに、あちらの往來おうらいをチンチン、ガンガンと鳴なり物ものをならして、ちんどん屋やがとおりました。三郎さぶろうさんも、ヨシ子こさんも、いつてみたかつたのだけれど、正まさちゃんまが、いっしょうけんめいで、じゆず玉たまをとおしているのでゆくことができませんでした。

そのつぎには、カチ、カチと拍子木ひょうしぎを鳴ならして紙芝居かみしばいが、原はらっぱへ屋台やたいをおろしたのです。

たくさん子供こどもたちが、わいわいと集あつまってきました。ヨシ子こさんも、三郎さぶろうさんも、我慢がまんがしきれなくなつて、とうとう、そつ

ちへかけ出して、いってしまいました。

しかるに、正ちゃんだけは、そんなことも耳にはいらないうに、じゆず玉をとおしていました。

じゆず玉の輪ができ上がると、正ちゃんはよろこんで躍り上がりました。

「できたよ、ヨシ子さん、できたよ！」

じゆず玉の輪を頭の上でふりまわしながら、みんなのいる方へ、自分もかけてゆきましたが、ふと、なにを思ったか、正ちゃんは、かけるのをやめて、立ち止まりました。

「僕、これを、うちへ持つていって、お母さんや、お姉さんに、見せてやろうかしらん。そして、あとで、ヨシ子さんにやればい

いのだ。」

しかし、正ちゃんには、もう、自分で美しいじゆず玉の輪が造れる自信ができました。

「もつと、もつと、きれいなのを造つて、お姉さん<sup>ねえ</sup>にあげるからいい。」と、また、かけ出しました。

\* \* \* \* \*

そこで、私は、正ちゃんのために、いいます。

「正ちゃん<sup>まさ</sup>は、小さいヨシ子<sup>ちい</sup>さんに頼まれて、とうとう、美しいじゆず玉<sup>だま</sup>の輪<sup>わ</sup>を造つたのです。このつぎのときには、もつと美しくできるにちがいありません。これから、正ちゃん<sup>まさ</sup>を不器用<sup>ぶきよう</sup>などというて、笑つてはいけませんよ。」



# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

※表題は底本では、「左《ひだり》ぎつちよの正《まさ》ちゃん」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔ゑびす

2012年2月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。



# 左ぎっちょの正ちゃん

小川未明

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>